

以上列擧セル手續中第一號第二號ノ場合即チ重罪ニ付テハ豫審ヲ求メ輕罪ニ付テハ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直チニ裁判所ニ訴テ爲スコトハ即チ起訴ノ手續タルニ外ナラスト雖モ第三號ノ場合即チ裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪事件ヲ區裁判所ノ檢事ニ送致スルコトハ是レ管轄裁判所ノ檢事ヲシテ起訴セシメシカ爲メノ手續タルニ止マルカ故ニ其送致ヲ以テ直チニ起訴ノ手續ト爲スコトヲ得サルナリ

地方裁判所檢事ニ於テ重罪ト思料シタル事件ニ付テハ必ス豫審ヲ求メサルヘカヲサル所以ノモノハ他ナシ元來重罪ハ其事件實ニ重大ナルヲ以テ有罪ノ者ヲ俾免セシムルモ又誤テ無辜ヲ處罰スルモ其害タル共ニ非常ナレハ苟クモ此弊害ヲ防遏センニハ其事實ニ付キ充分ナル調査ヲ爲サルヘカラス然ルニ公判ハ素ト原被兩造ノ陳述辯論ニ依リ判定サ下スヲ以テ其本務トナスモノナルカ故ニ若シ豫審ヲ爲サスシテ直チニ公判ニ付スルカ如キコトアラハ爲メニ充分ナル取調ヲ爲スコトヲ得サルノ恐レナキニアラス從テ重罪事件ニ付テハ必ス證據蒐集ヲ以

テ專務トスル豫審ノ取調ヲ受ケシメサルヲ得サレハナリ輕罪ニ在テモ亦其事件重大ナルカ又ハ煩雜ナルモノニ至リテハ直チニ之ヲ公判ニ付スルノ不當ナルコト毫モ重罪ト異ナル所ナシ左レトモ重罪ノ如ク如何ナル事件タルヲ論セス必ス豫審ヲ求ムヘキモノトセハ輕易ノ事件ニ付テハ無用ノ手續タルヲ免レス故ニ輕罪ニ付テハ檢事ノ見込ニ依リ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直チニ公判ニ付スルコトト爲セリ又裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪及違警罪ハ其事件輕易ナルヲ以テ法律ハ之ヲ豫審ニ付スルコトヲ許サス故ニ檢事ニ於テ重難ナル輕罪事件ナリト思料シテ豫審ヲ求メタル場合ハ格別初ヨリ構成法第十六條第二號第三號ニ該當スル輕罪又ハ違警罪ト思料セル事件ニ付テハ豫審ヲ求ムルコトヲ得サルナリ

區裁判所檢事ニ於テ犯罪ノ搜查ヲ終リタル後裁判所構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件即チ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ト思料シタルトキハ其區裁判所ニ起訴スヘキコトハ本法第六十三條ノ規定スル所ナリ既ニ講述セルカ如ク違警罪即決例ナルモノハ裁判所構成法ノ爲メ變更ヲ受クル所ナク仍ホ其効力

ヲ有スルモノナレトモ本法ハ區裁判所ノ檢事ニ命スルニ裁判所構成法第十六條第一號ニ記載シタル事件即チ違警罪ニ付テハ區裁判所ニ起訴スヘキ旨ヲ以テセラルコト斯ノ如ク又地方裁判所檢事ニ命スルニ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スヘキ旨ヲ以テセラルコト前述ノ如ク故ニ違警罪ニ付テ即決ヲ爲ス場合ハ其事件未ダ檢事ノ手裡ニ移ラサルトキ即チ警察署ニ於テ違警罪アルコトヲ知得シ直チニ其所分ヲ爲スヘキトキニ限ルモノナリ換言スレハ地方裁判所ノ檢事タルト區裁判所ノ檢事タルトヲ論セス其事件一度檢事ノ手裡ニ移ルトキハ復タ即決ヲナサシメシカ爲メニ之ヲ警察署ニ送附スルコトナシ蓋シ違警罪ニ付キ即決ヲ爲スハ素ヨリ正式ニアラスト雖モ唯タ事ノ簡便テフ一利益アルニ由リ此制度ヲ設ケタルモノナリ然ルニ其事件一度檢事ノ手裡ニ移リタルニ拘ハラヌ即決ノ爲メニ之ヲ警察署ニ送附シ警察署ニ於テ即決ヲ爲シタル後更ニ被告ヨリ區裁判所ニ正式裁判ヲ請求スル如キコトアリテハ簡便ヲ主トセル即決ハ却テ不便ノ手續トナルヘキヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ法律ハ即決ヲ爲サスシテ直チニ正式裁判ヲ爲スヲ以テ至當トナシタルモノナルヘシ

借又前述シタル第六十二條第三號ノ規定ト第六十三條ノ規定トヲ對照スルニ其間一致ヲ欠クモノアルニ似タリ即チ第六十二條第三號ニ於テハ裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ云々トアリテ裁判所構成法第十六條第三號ニ記載セル輕罪事件ハ區裁判所ノ管轄ナレハ之ヲ區裁判所ノ檢事ニ送致スヘキコトヲ命セリ然ルニ第六十三條ニ於テハ區裁判所檢事犯罪ノ搜查ヲ終リタル上裁判所構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件ト思料シタルトキハ云々トアルノミニシテ構成法第十六條第三號ニ記載シタル事件ニ付キ起訴スヘキコトヲ命シタル所ナシ是レ即チ二條ノ間互ニ一致ヲ欠クノ觀アル所以ナリ左レトモ此抵觸タルヤ單ニ皮相上ノモノタルニ止マリ其實ハ一致ヲ欠ク所ナシ何トナレハ裁判所構成法第三號ニ記載シタル所ノモノハ其本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該ルヘキ事件ニシテ當然區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニアラスト唯タ地方裁判所又ハ其支部ノ檢事ニシテ或事件ノ犯狀ヲ取調ヘ其ノ事件ハ構成法第十六條第三號所定ノ刑罰ノ範圍内ニ於テ全條第二號所定ノ刑罰即チ五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ

又ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ヨリハ重キ刑ニ處スルニ及ハス其以下ニ於テ處罰スルヲ以テ足レリト思料シ之ヲ區裁判所檢事ニ移付シタルトキニ限り特ニ該裁判所ノ管轄トナルニ過キス故ニ區裁判所ノ檢事ハ縱令或事件ニ付構成法第十六條第三號ニ該當セルモノト思料スルコトアルモ直チニ之ヲ起訴スルコトヲ得サルモノナリ畢竟スルニ區裁判所檢事ハ地方裁判所檢事ノ送致ヲ俟テ始メテ該事件ヲ取扱フコトヲ得ルニ過キスシテ初ヨリ之ヲ起訴スルノ職權アルモノニアラサルナリ

既ニ講述セルカ如ク檢事ハ一体ナリテフ原則アリト雖モ裁判所ノ等級或ハ區畫ニ依リ其管轄ヲ規定セラル、所アルカ故ニ苟シモ自己ノ管轄ニ屬セサル事件ニ付テハ素ヨリ檢事トシテ職分ヲ行フコトヲ得ス故ニ檢事ニ於テ犯罪ノ搜查ヲ爲シ其事件自己ノ職務ヲ行フヘキ裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ相當ノ處分ヲナサシメシメカ爲メニ管轄裁判所ノ檢事ニ之ヲ送致セサルヘカラス又被告事件ハ法律ノ罰セサル所ニシテ即チ罪ト爲ラサルコトヲ思料スルカ若シハ其事件ハ法律ノ罰スル所ナルモ公訴消滅ノ原由アルカ爲メ之ヲ受理スヘカラ

サルモノト思料スルトキハ孰レノ場合ニ於テモ到底公訴ノ目的ニ適合セサルヲ以テ決シテ起訴スヘキモノニアラサルナリ  
 公訴ヲ提起スルト否トハ素ヨリ檢事ノ思料ニ一任スルモノニシテ被害者ハ毫モ關係スル所ナシ然レトモ被害者ハ公訴事件ノ模様ニ依リ自ラ處分ヲ爲サ、ルヲ得サル場合アリ例ヘハ檢事ヨリ被告事件ニ付キ公訴ヲ提起スルトキハ被害者ハ之ニ附帶シテ私訴ヲ起スコトアルヘシ又檢事ニ於テ公訴ヲ起サ、ルトキハ被害者ハ損害回復ノ爲メニ單純ナル民事ノ訴ヲ爲スコトアルヘシ故ニ檢事ニ於テ公訴ヲ提起スルト否ト又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ送致スル等ノ事ハ被害者之ヲ知了スルノ必要アリ是レ即チ第六十五條ノ規定アル所以ナリ同條ニ曰ク前數條第六十二條以下ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シト今此規定ニ依レハ檢事ハ場合ノ如何ヲ問ハス常ニ被害者ニ對シ被告事件ノ處分ヲ通知スヘキモノニアラスシテ唯其事件ノ告訴ニ係ルトキニ限り此義務アルニ過キス蓋シ被害者ハ縱令犯罪ノ爲メ損害ヲ蒙リタル所アルモ其事件ニ付キ告訴ヲモ爲サ、ルニ於テハ畢竟飽迄モ其損害ヲ回復セントスルノ意

思アニアラサルコトヲ推知シ得ヘク從テ檢事ヨリ其處分ヲ通知スルニ及ハスト  
爲シタルモノナルヘシ  
以上講述セル第六十四條及第六十五條ノ規定ハ地方裁判所ノ檢事並ニ區裁判所  
ノ檢事ニ共通スル所ノモノナリ此他尙ホ地方裁判所檢事ニ特有ナル規定アリ以  
下之ヲ畧述セム

既ニ講述シタルカ如ク檢事ハ公訴提起ノ準備トシテ搜查處分ヲナスモノナリ故  
ニ此處分ヲ終了シテ豫審ヲ求ムル場合ニ至レハ其事件ニ付テハ必ス多少知得セ  
ルコトアルヘシ是ヲ以テ檢事ヨリ豫審ヲ求ムルニ方リ豫審判事ニ其知得セル事  
項ヲ通知スルコト於テハ判事ハ取調ノ端緒ヲ得ルカ故ニ審理上ノ便宜アルノミナ  
ラス檢事モ亦自己ノ目的ヲ達シ易キノ利益アリ是レ即チ本法第六十六條ノ規定  
アル所以ナリ同條ニ曰ク檢事豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考ト爲スヘキ  
事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス  
可シト然ルニ此規定タルヤ檢事ニ於テ被告事件ニ付キ知得シタル事項アラハ之  
ヲ豫審判事ニ通知スヘシト云フニ過キサレハ檢事ハ必スシモ第六十六條所定ノ

一切ノ事項ヲ指示スヘキ責アルニアラス換言スレハ第六十六條ノ規定ハ檢事ヲ  
シテ證據及ヒ事實參考ト爲ス可キ事物臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ證人  
ト爲ル可キ者等一モ欠クル所ナク指示スヘキ責務ヲ負擔セシムルノ趣旨ニアラ  
サルヲ以テ檢事ニ於テ被告事件ニ付キ特ニ知得セル事項アラサレハ縱令證據其  
他ノ事物ヲ送致セヌ又ハ臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名等ヲ指示セサルモ尙ホ  
豫審判事ハ其事件ニ付キ豫審ヲ爲サハルヘカラス故ニ檢事カ第六十六條所定ノ  
手續ヲ盡スト否トハ毫モ公訴ノ提起ニ關係スル所アラサルナリ而シテ此手續タ  
ルヤ檢事ヨリ豫審ヲ求ムル場合ニ關スルモノナレハ單ニ地方裁判所ノ檢事ニ限  
リ之ヲ實行スヘキモノニシテ區裁判所ノ檢事ニハ毫モ關係セサルモノナルコト  
勿論ナリトス

檢事ノ職務タル公訴ノ提起ニ付テハ二種ノ主義アリ依法主義及便宜主義即チ是  
レナリ依法主義トハ檢事ヲシテ法律ノ命スル所ニ從ヒ必ス公訴ヲ提起セシムル  
モノニシテ即チ公訴ノ提起ヲ檢事ニ強令スルモノヲ云ヒ便宜主義トハ公訴ヲ提  
起スルト否トチ一ニ便宜ニ依ラシムルモノニシテ即チ檢事ノ意見ニ一任スルモ

ノキ云フ本邦ノ刑事訴訟法ニ於テハ素ヨリ明文ヲ以テ依法主義ナルカ將ク便宜主義ナルカヲ表明セル所ナシト雖モ前述セル第六十二條ニ依レハ檢事ニ於テ犯罪ト思料シタル事件ニ付テハ即チ起訴ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ命シ又第六十四條ニ於テ被告事件罪トナラサルカ又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラスト命シタル點ヨリ推究スレハ復タ以テ斯法ノ主義如何ヲ知了スルコトヲ得ヘシ今此規定ニ依レハ檢事ニ於テ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラサル場合ハ被告事件罪ト爲ラサルカ又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルトキニ限ルモノニシテ苟シモ犯罪ト思料シタル事件ニ付テハ常ニ起訴ノ手續ヲ爲ス可キモノナルコト明カナリ從テ此規定ハ檢事ニ於テ犯罪ト思料シタル事件ニ付キ便不便ニ依テ起訴スルト否トヲ決定スルノ餘地ヲ與ヘタルモノト認ムルコトヲ得ス是故ニ本法ノ主義ハ夫ノ獨逸刑事訴訟法ニ於テ檢事起訴セサルトキハ被害者ヨリ故障ヲ申立テ其申立採用セラレサルトキハ檢事ノ處分ニ付訴ヲ爲スト云フ規定ノ如ク嚴正ナルモノニアラスト雖モ尙ホ之ヲ依法主義ナリト云ハサルヲ得サルヘシ余カ曩ニ公訴ニ關スル講義ヲ爲スニ爲リ公訴ヲ提

起スルト否トハ本法之ヲ檢事ニ一任セルコトヲ説明セリ然ルニ今本法ハ依法主義ナリト云フハ自家撞着ノ嫌ナキニアラサルカ如シト雖モ所謂公訴ヲ提起スルト否トヲ檢事ニ一任スルトハ即チ犯罪ト思料スルヤ否ヲ檢事ノ意見ニ任スルニアリ而シテ依法主義ニ於テハ檢事ノ犯罪ト思料シタル事件ハ之ヲ起訴スヘキコトヲ命スルニアルヲ以テ二者必スシモ抵觸スルモノニアラサルナリ

#### 第四章 豫審

豫審ニ於テハ犯罪ノ證據ヲ蒐集スルモノナリ然レトモ此處分ト檢事ノ職務タル搜查處分トハ其性質ヲ同フセサル所アリ又豫審ニ於テハ證據ノ裁判ヲ爲スモノナリ然レトモ此裁判ト公判ノ裁判トハ其性質ヲ異ニスル所アリ故ニ豫審ハ搜查ニアラス又公判ニモアラス二者ノ中間ニ位スルモノト謂フ可シ然ラハ法律ハ何か故ニ斯ル制度ヲ設ケタルヤト云フニ蓋シ左ノ如キ理由ニ出ルモノナラン

(第一) 法律ハ未タ事件ニ關スル證據ヲ蒐集セサルニ先タ其ノ事件ヲ公判ニ付スルコトヲ好マス何トナレハ未タ證據ノ具備セサルカ爲メ有罪者ヲシテ倅免セシムルコトアリ又取調ノ粗漏ナルカ爲メ無辜ヲ處罰スルノ恐レアレハナ

(第二) 法律ハ單ニ犯罪人ナラントノ漫然タル嫌疑ヲ以テ其事件ヲ公判ニ付スルコトヲ欲セス何トナレハ被告人カ果シテ罪ノ問フヘキモノナケレハ裁判所ノ審理ニ由リ結局無罪ノ言渡ヲ受クルニ至ルヘシト爲スモ既ニ被告人トシテ公ノ法廷ニ引致セラレ公ノ訊問ヲ受クル以上ハ單ニ此一點ノミヲ以テ其人ノ名譽ト利益トヲ傷害スルコト尠少ニアラサレハナリ

法律ニ於テ豫審ノ制ヲ設クルノ趣旨前述ノ如シ故ニ豫審ニ於テハ其事件ニ關スル一切ノ證據ヲ蒐集シ該事件ノ果シテ公判ニ付スヘキモノナルヤ否ヲ決定スルヲ以テ其本務トス夫レ斯ノ如ク被告事件ヲ公判ニ付スルト被告人ヲシテ訴訟ヨリ免脱セシムルトハ共ニ豫審ノ決定ニ由テ定マル所ノモノナルカ故ニ決定ハ即チ二者ノ岐ル、所ナリト雖モ亦其事件ノ本案ニ付キ判定ヲ下スモノニアラス更ニ之ヲ詳述スレハ豫審ニ於テハ唯テ被告人ニ對スル有罪ノ推測ノ果シテ充分ナルヤ否ヲ決定スルニ過キスシテ直チニ罪ノ有無ヲ判定スルモノニアラサルナリ既ニ講述セルカ如ク豫審ニ於テハ證據ノ蒐集ヲ以テ本務トナスモノナリ左レハ

法律ニ於テ公然此手續ヲ踐行セシムルトキハ未タ蒐集ノ處分ヲ爲サ、ルニ方リテ被告人ヨリ其證據ヲ隱匿シ爲メニ豫審ノ目的ヲ貫徹スルコトヲ得サルノ恐れアリ加之豫審ハ可及的被告人ノ名譽ヲ毀損セサルヲ要ス然ルニ公ナル法廷ニ於テ被告人トシテ訊問ヲ受ケシムルコトハ到底其者ノ名譽ヲ保維スル所以ノ道ニアラサルナリ是故ニ豫審ハ秘密ナリトス玆ニ注意スヘキハ所謂豫審ノ秘密トハ單ニ其手續ヲ世人ニ示サ、ルコト即チ審問判定ヲ公開セサルコトノミナ云フニアラス現ニ其事件ノ原告官タル檢事ト雖モ尙ホ其取調ニ立會フコトヲ許サヌ又被告人若クハ被害者等現ニ其事件ニ關係スル者ニ對シテモ唯テ事實ノ陳述ヲ爲サシムルニ止マリ其取調ノ模様ハ之ヲ告知スルコトナシ又被告人又ハ辨護人等ヲシテ事實ノ點若クハ法律ノ點ニ付キ辯論ヲ爲サシムルモノニアラサルナリ豫審ハ秘密ニシテ原被兩造ノ辯論ヲ許サヌ其取調ヲ豫審判事ニ一任スルモノナルコト右ノ如シ故ニ豫審ニ於テハ原被兩造ノ證據即チ被告人ニ不利益ナル證據モ又被告人ニ利益ナル證據モ併セテ之ヲ蒐集セサルヘカラス然レトモ檢事ハ公訴ヲ實行スル責任ヲ負擔スルモノニシテ此職務ヲ行フニ付テハ常ニ其事件ノ摸

様ヲ知ラサルヘカテサルノ必要アルカ故ニ檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ  
請求シテ訴訟記録ヲ檢閲スルコトヲ得ヘシ又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其  
請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ左レトモ豫審判事ニシテ檢事ノ請求ニ應スルト否トハ  
素ヨリ其隨意ナリトス

檢事ニ於テ豫審判事ノ承諾ヲ得訴訟記録ヲ檢閲スルトキハ必ス二十四時間内ニ  
之ヲ還付セサルヘカラス是レ其檢閲ノ爲メニ豫審手續ヲ遅延セシムヘキニアラ  
サレハナリ

惜又豫審ノ本務タル證據ノ蒐集ハ極メテ迅速ニシテ其機會ヲ失ハサルヲ要ス從  
テ豫審手續ハ可成的簡便ナラサルヘカテサルヤ勿論ナリトス法律ニ於テ豫審判  
事ヲ獨任ト爲スモ畢竟此趣旨ニ出ルモノナリ又證據ノ蒐集ハ人ノ意思ニ違ハス  
シテ爲シ得ヘキモノニアラス故ニ豫審ニ於テハ或ハ人ノ自由ヲ侵シ或ハ人ノ住  
居ヲ侵スコトアリ其他信書ノ秘密又ハ財産ノ權利等ヲ侵スコトアリ元來日本臣  
民ハ憲法ノ規定ニ依リ是等ノ權利自由ヲ確保セラル、ヲ以テ官府タルト私人タ  
ルトヲ論セス決シテ此等ノ權利此等ノ自由ヲ侵スコトヲ得スト雖モ而モ亦公益

ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ侵害スルコトアルモ實ニ止ムヲ得サルナリ故  
ニ帝國憲法ニ於テモ亦臣民ノ權利自由ヲ認ムルト同時ニ法律ノ規定アル場合ハ  
例外トセリ豫審處分ニ關スル本法ノ規定ノ如キハ即チ憲法ノ認メタル法律ノ規  
定中最モ重要ナル部分ヲ占ムルモノト云フ可シ

原告人ニ於テ自ラ裁判スルコトヲ得サルハ實ニ訴訟法ニ於ケル一大原則ナリ原  
告既ニ自ラ裁判スルコトヲ得ストセンカ其裏面ヨリ論スレハ裁判ヲ爲ス者自ラ  
原告トナルコトヲ得サルハ亦之ト同一理ナリ故ニ告ケサレハ理セステフ大原  
則ハ豫審ト公判トニ於テ區別アルコトナシ本法第六十七條ニ於テ現行ノ重罪輕  
罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規  
定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ効ナカルヘシト規定シタルハ  
即チ此趣旨ニ出ルモノナリ所謂其請求ヨリ以前ニ係ル手續云々トハ豫審判事ニ  
於テ檢事ノ請求ヲ俟タス直チニ豫審ニ着手シ其後檢事ヨリ請求シタル場合ノ規  
定ニシテ要スルニ檢事ノ請求アルニアラサレハ豫審判事ハ有効ナル手續ヲ爲ス  
ヲ得サルノ趣旨ナレハ若シ檢事ニシテ結局迄請求ヲ爲サ、ルトキハ豫審判事ノ

爲シタル手續ハ全部無効タルニ至ルヘシ又第六十七條ニ於テ現行ノ重罪輕罪ヲ例外トナシタルハ此等ノ犯罪ニ付テハ豫審判事ニ於テ檢事ノ請求ヲ俟タス直チニ豫審ニ着手スルコトヲ得ルノ特例アレハナリ夫レ斯ノ如ク豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ到底豫審ニ取掛ルコトヲ得サルモノナリト雖モ此制限タルヤ唯ダ豫審着手ノ際之ヲ遵守スヘキモノタルニ過キスシテ苟クモ一旦檢事ノ請求アリタル以上ハ其事件豫審判事ノ管轄ニ屬スルヲ以テ自己ノ必要ト思料スル事項ハ檢事ノ請求ヲ俟タス之ヲ專行スルコトヲ得ルヤ素ヨリ論ヲ俟タサルナリ

令狀

第一節 令狀

令狀ニハ相當官吏ニ於テ被告人ヲ訊問センカ爲メニ其出頭ヲ命スルモノアリ又被告人ヲシテ逃走セシメサランカ爲メニ其ノ引致又ハ拘禁ヲ命スルモノアリ從テ令狀ニ人ヲ強制スルモノト然ラサルモノトノ二種アリト今此等二種ノ令狀ヲ一括シテ之カ定義ヲ下セハ令狀トハ被告人ヲ出頭セシメ若クハ之ヲ勾禁スルニ付キ相當官吏ノ命令ヲ記載シタル書面ナリト云フコトヲ得ヘシ  
令狀ノ中人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ勾禁スル効力アルモノ、如キハ固ヨリ人身ノ自由

ト相容レヌ然レトモ人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ勾禁スルニ令狀ヲ用ササルトキハ其逮捕セラレ若クハ勾禁セラレ、モノニ於テハ逮捕勾禁ノ正當不正當ヲ鑑別スルコトヲ得サルヲ以テ不正當ノ逮捕勾禁ト雖モ之ヲ避クヘキ方法ナシ令狀ハ即チ逮捕勾禁ノ正當ナルコトヲ證明スルモノニシテ此證明ナキトキハ何人ト雖モ逮捕勾禁ヲ拒ムコトヲ得ヘシ然レハ逮捕勾禁ノ正當ナルコトヲ證明スルハ即チ不正當ノ逮捕勾禁ヲ防ク所以ニシテ即チ亦人身ノ自由ヲ保護スル所以ナリ  
以下令狀ノ各種類ニ付キ逐次講述スヘシ

(一) 召喚狀

豫審判事ニ於テ檢事ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シテ先ツ召喚狀ヲ發セサルヘカラス此令狀ノ目的タルヤ被告人ヲシテ裁判所ニ出頭セシムルニアレトモ其召喚ニ應スルト否トハ被告人ノ隨意ニシテ之ヲ強制スル効力アルモノニアラサルナリ蓋シ檢事ハ豫審ヲ求ムルニ先ダチ犯罪ノ搜查處分ヲ施スヤ勿論ナリト雖モ搜查處分ハ事實ノ正確ナルコトヲ保スルモノニアラス故ニ豫審判事事件ヲ受理シタルトキニ在テハ其事件果シテ存スルヤ否被



告人果シテ人違ナキヤ否其思料未タ確カナラサルモノナリ然ルニ被告人ニ對シ直ニ勾引若クハ勾留等ノ強制ヲ加フルハ妥當ヲ得タルモノト云フヘカラス是レ法律ハ先ツ召喚狀ヲ發スヘシト命スル所以ナリ

豫審判事ニ於テ召喚狀ヲ發シタル以上ハ可成被告人ニ便宜ヲ與ヘ召喚ニ應シ易カラシムルノ方法ヲ採ラサルヘカラス本法第六十七條後段但召喚狀ノ送達ト被告入出頭トノ間少シトモ二十四時ノ猶豫アルヘシトノ規定ハ即チ此趣旨ニ出ルモノナリ又召喚狀ヲ受ケタル被告人ハ單ニ嫌疑ノ爲メニ出頭ヲ命セラレタルニ過キサルヲ以テ長日時ノ間之ヲ留置スルカ如キハ實ニ不當ト云ハサルヲ得ス故ニ第六十九條第二項ニ於テ召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問スヘシ又遲クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得スト規定セリ又召喚狀ヲ受ケタル被告入疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタル場合ニ於テ尙ホ其出頭ヲ強ニルカ如キハ實ニ嚴酷ナリ然レトモ常ニ其事故ノ消滅スルヲ待ツトキハ事機ヲ失スルノ恐レアル場合ナキニ非ス故ニ此クノ如キ場合ニ於テハ豫審判事又ハ受託判事ハ其被告人ノ所在ニ就テ訊問スルコトヲ得ルノ便法

ヲ設ケタリ此便法ノ如キハ即チ公私兩益ヲ保護スルノ目的ニ出ルモノナリ又召喚狀ヲ受クヘキ被告人受訴裁判所ノ管轄地内ニ住セサル場合ニ於テハ豫審判事ハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑托スルコトヲ得ヘシ是レ其被告人ハ單ニ嫌疑ヲ受ケタルモノタルニ過キサレハ強テ他管ヨリ出頭セシムルカ如キハ酷ニ失スルノ嫌アレハナリ然レトモ此囑托ヲ爲スト否トハ豫審判事ノ思料ニ一任スルモノニシテ素ヨリ法律ノ強制スル所ニアラス又囑托ヲ受ケタル判事即チ受託判事ハ固ヨリ事件全体ノ囑托ヲ受ケタルモノニアラサルヲ以テ囑托以外ノ所分ヲ行フコト能ハサルヤ勿論ナリト雖モ其受託處分ヲ實行スルニ必要ナル手續即チ被告人ニ對シテ召喚狀ヲ發スル等ノ事項ハ之ヲ專行スルヲ得ルコト管轄ノ豫審判事ト異ナル所ナシ

豫審ニ於ケル召喚狀ハ公判ノ呼出狀ト異ナルコトナシ唯タ豫審ニ於テハ被告人ヲ呼出ストキノミ之ヲ召喚狀ト稱シ證人鑑定人等ヲ呼出ストキノ之ヲ呼出狀ト名ケタレトモ公判ニ於テハ總テ之ヲ呼出狀ト稱スルノ差アルニ過キサルナリ

(二) 勾引狀

勾引狀モ亦被告人ヲシテ相當官吏ノ面前ニ出頭セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ其召喚狀ト異ナル所ハ其出頭ヲ被告人ノ意ニ任カセス公力ヲ以テ強テ引致セシムルノ點ニアリ豫審判事又ハ受托判事ニ於テ一タヒ召喚狀ヲ發シタルモ被告人其日時ニ出頭セサルコトアラソカ縱令更ニ召喚狀ヲ發スルモ到底其出頭ヲ期スヘカラス何トナレハ被告人ニシテ初度ノ召喚ニ應セサル以上ハ既ニ其召喚ヲ避クルノ意思アルコトヲ推知シ得ヘケレハナリ故ニ時宜ニ依リ豫審判事又ハ受托判事ニ於テ再應召喚狀ヲ發スルハ固ヨリ不可ナルコトナシト雖モ法律ニ於テ必ス再應之ヲ發スヘシト命スルカ如キハ決シテ宜ヲ得タルモノニアラス是レ即チ本法第七十一條ニ於テ被告人召喚ノ日時ニ出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルヲ得ヘキコトヲ規定シタル所以ナリ蓋法律ハ人ノ自由ヲ重ンスルカ故ニ最初ヨリ其自由ヲ勾束スルノ手段ヲ採ラサルモ被告人既ニ召喚ニ應セサル場合ニ於テハ其召喚ニ應セサルノ故ヲ以テ其處分ヲ等閑ニ付スルコトヲ得ルモノニ非ス故ニ此場合ニ於テハ人ノ自由ヲ勾束スルモ亦已ムヲ得サルコトナリト爲シタルモノナルヘシ

勾引狀ハ召喚狀ニ次テ發スルヲ原則トスルコト夫レ斯ノ如シ然レトモ場合ニ依リテハ公安ノ爲メニ本則ヲ遵守スル能ハサルコトアリ故ニ本法ハ或制限内ニ於テ召喚狀ヲ發セシテ直ニ勾引狀ヲ發スルコトヲ許容セリ是レ即チ第七十二條ノ規定スル所ニシテ其場合ハ左ノ如シ

- 第一 被告人定リタル住所アラサルトキ
- 第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ
- 第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ

第一ノ場合ニ於ケル被告人多クハ財産ナク又親族モナキ浮浪ノ輩ニシテ其逃亡ノ極メテ容易ナルモノナルヲ以テ之ヲ第二ニ包含セシムルモ亦不可ナルコトナキカ如シ然レトモ被告人ニシテ既ニ一定ノ住所ヲ有セサルトキハ縱令逃亡ノ恐ナキ場合ニ於テモ到底召喚狀ヲ送致スヘキ場所ナク從テ空シク時機ヲ失シ非常ナル不便ヲ生スヘシ是レ本法カ單ニ一定ノ住所ナキ一點ニ依リ直ニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得セシムル所以ナルヘシ第二ノ場合ニ於テハ被告人ニ對シテ速ニ取

調ヲ爲サレハ遂ニ豫審ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テ是亦直  
 ナニ被告人ヲ勾引スルノ必要アリ若シ斯ル場合ニ在テモ尙ホ正則ニ從ヒ先ツ召  
 喚狀ヲ發セサルヘカラストセンカ法律ハ被告人ニ向テ罪證ノ湮滅又ハ逃亡ヲ督  
 促スルト一般實ニ奇怪ノ甚シキモノト云ハサルヘカラスト是レ斯ル例外ヲ設ケタ  
 ル所以ナリ又第三ノ場合ハ其時機甚ク緊急ニシテ若シ被告人ノ爲ス所ニ放任ス  
 ルトキハ即チ被害者ハ一層重大ナル損害ヲ被ルヘク被告人ハ一層重大ナル罪ヲ  
 犯スニ至ルノ恐れアリ故ニ其罪ノ未タ重カラズ害ノ未タ大ナラサル時ニ被告人  
 ナ勾引シ更ニ罪ヲ犯スコトヲ得サラシムルハ當タニ被害者ヲ保護スル爲メニ必  
 要ナルノミナラス被告人ノ利益ノ爲メニモ亦必要ナル處分ナリ是レ即チ此例外  
 アル所以ナリ茲ニ注意スヘキハ第三ノ場合ニ所謂未遂罪トハ單ニ犯人ノ未タ目  
 的ヲ遂ケサルコトヲ指示シタルモノニ過キスシテ刑法上ノ未遂犯罪ト同一視ス  
 ヘキモノニアラサルコト是レナリ故ニ刑法ニ於テハ其所爲現ニ已遂犯トナルモ  
 犯人尙ホ繼續シテ之ヲ犯サントスル場合ノ如キ又刑法ニ於テハ隱謀豫備等ニシ  
 テ未タ未遂犯罪ノ範圍ニ達セサルモノト雖モ被告人ニシテ尙ホ繼續シ其所爲ヲ

遂ケントスル場合ノ如キ皆チ是レ第三ノ所謂未遂罪ナル旨詞ニ包含セララルヘ  
 ント云ハサルヘカラスト又第三ノ場合ニ所謂脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケント  
 スル恐れアルトキトハ頗ル解シ難キ法文ナリ元來脅迫罪トハ言語其他ノ方法ヲ  
 以テ人ニ危害ヲ加ヘントスル擬勢ヲ爲シ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシムルヲ以テ  
 其本質ヲスルモノナリ故ニ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシメタルトキハ既ニ脅迫罪  
 ノ目的ヲ遂ケタルモノト云ハサルヲ得ス夫ノ家屋ニ放火シ又ハ人ヲ殺傷セント  
 脅迫スルモノ、如キ其放火殺傷等ハ該犯罪ノ手段タルニ止マリ決シテ其目的ニ  
 ハアラサルナリ法文ニ所謂其目的ヲ遂ケントスルトキトハ果シテ如何ナル意義  
 ナ有スルモノナル乎脅迫罪ノ真正ノ目的即チ人ヲシテ恐怖セシムルノ目的ヲ遂  
 ケントスル場合ナリトセンカ被害者ニシテ未タ恐怖ノ念ヲ起サ、ル場合ナラハ  
 脅迫罪ヲ犯シタリト云フコトヲ得ス又被害者ニシテ既ニ恐怖ノ念ヲ起シタル場  
 合ナリトセンカ其後ニ於テハ脅迫罪ニ付更ニ遂ケルキ目的ナシ故ニ法文ニ於テ  
 ハ脅迫罪ノ目的ト云フニ拘ハラス被告人ニ於テ脅迫ノ手段ト爲シタル事柄ヲ實  
 行セントスル場合ヲ指示セルモノト爲スノ外解釋ノ途ナカルヘシ

勾引狀ハ素ヨリ被告人ヲ引致スルノ効力ヲ有スルモノナリト雖モ之ヲ留置スルノ効力ナシ故ニ此令狀ニ因リ引致シタル被告人ハ可成速ニ之ヲ訊問シ留置ヲ要スルモノナレハ勾留狀ヲ發シ留置ヲ要セサルモノナレハ之ヲ釋放スルニ非サレハ勾引狀ハ勾留狀ト其効力ヲ同シラスルニ至ルヘシ故ニ第七十三條第二項ニ於テ勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルコトアラサレハ當然之ヲ釋放スヘシト規定セリ茲ニ注意スヘキハ此時間ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ之ヲ起算スルモノナルヲ以テ遠隔ノ地方ヨリ引致セラル、場合ノ如キ其法廷ニ到着スル迄ノ日子ハ縱令數日又ハ數十日ニ渉ルモ之ヲ算入スルコトナキカ故ニ勾引狀ハ人ヲ留置スル効力ナシト云フモ被告人ハ之カ爲メ數日又ハ數十日間其自由ヲ奪ル、ヲ免カレサルコト是レナリ

勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ豫審判事又ハ受托判事ハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルヲ得ルコト召喚狀ヲ發セル場合ト同一ナリ然レトモ勾引狀ハ直チニ被告人ヲ引

致スルノ効力アルモノナリ以テ召喚狀ノ場合ノ如ク被告人ヨリ事由ヲ疏明シ爲シ判事ニ於テ事由ノ正當ナルヤ否ヲ判定スルヲ猶豫アルヘキモノニアラス故ニ勾引狀ノ場合ニ於テ此規定ヲ實行セシニハ該令狀ヲ執行スル者其事由正當ナリト思料スルトキハ令狀ヲ執行セシ豫審判事又ハ受托判事ニ其事由ヲ告ケテ判定ヲ求ムルノ外方法ナカルヘシ

勾引狀ハ豫審判事又ハ受托判事ヨリ被告人ニ對シテ之ヲ發スルヲ通常トスレトモ時トシテハ被告人以外ノ者ニ對シテ之ヲ發スルコトアリ即チ證人トシテ呼出カレタルモノ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル場合ニ於テハ豫審判事ヨリ證人ニ對シテ勾引狀ヲ發スルコトアリ又禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シテハ裁判所モ亦勾引狀ヲ發スルコトヲ得ルモノナリ殊ニ現行犯ノ場合ニ於テハ檢事司法警察官ニモ勾引狀ヲ發スルノ權ヲ與ヘタリ其詳細ハ他日更ニ之ヲ講述スヘシ

三 勾留狀

勾留狀ハ被告人ヲ監獄ニ留置スル令狀ニシテ勾引狀ニ比スレハ一層其自由ヲ拘

東大ルモノナリ蓋判決ノ未ク確定セサルニ方テ人ヲ拘留スルカ如キハ純理ノ許  
 サル所ナリト雖モ刑罰ノ執行ヲ確實ナラシメント欲セハ被告人ノ逃亡ヲ防カ  
 サルヘカラス又事實ノ發見ヲ容易ナラシメント欲セハ證據ノ湮滅ヲ防カサルヘ  
 カラサルヲ以テ未決勾留ヲ爲スハ實ニ止ムヲ得サルニ出ルノ處分トス  
 勾留狀ヲ發スルニ付テハ法律止特ニ制限ヲ設ケ單ニ被告人ニ對スル犯罪ノ推測  
 ノミヲ以テ足レリトセズ被告人ヲ訊問シタル後其犯罪禁錮以上ノ刑ニ該當ス可  
 キモノト思料シタル場合ニ限り該令狀ヲ發スルコトヲ得ルモノト爲セリ此規定  
 タルヤ該令狀ヲ發スルニ付キ被告人ヲ訊問シタルコト及禁錮以上ノ刑ニ該當ス  
 ト思料スルコトノ二條件ヲ要スルモノナルヲ以テ被告人ヲ訊問シタル後罰金又  
 ハ違警罪ノ刑ニ該當ス可キモノト思料シタル場合ニ於テ勾留狀ヲ發スルコトヲ  
 得サルハ勿論縱令禁錮以上ノ刑ニ該當ス可キモノト思料シタル場合ニ於テモ其  
 思料ニシテ訊問ニ基因セルモノト爲ラザルトキハ亦テ該令狀ヲ發スルコトヲ得  
 ス蓋シ被告人ノ訊問ハ事實發見ノ爲メ極メテ必要ノ事ナルカ故ニ被告人ヲ訊問  
 シタル後ニアラザレハ其思料ヲ以テ正確ナルモノト爲サザルナリ若シ單ニ被告

人ヲ處罰スル點ノミニ注目スルトキハ罪證ノ有無又ハ罪質ノ輕重等ニ拘ハラヌ  
 何時ニテモ未決勾留ヲ許スヲ以テ便宜トナスヘケレドモ斯ク容易ニ此處分ヲ許  
 ストキハ爲メニ無辜ヲ苦シメ又ハ未決勾留ノ苦痛ハ却テ本刑ノ苦痛ヨリモ重大  
 ナルカ如キ弊害ヲ生スルハ免レ難キ所ニシテ明カニ未決勾留ノ性質ニ背戻シ止  
 ムヲ得ル場合ニ止ムヲ得サルノ處分ヲ爲スモノト云ハサルヲ得ス故ニ實際ノ便  
 宜ヲ以テ勾留狀ヲ發スルノ手續ヲ容易ニスルコトヲ得サルナリ  
 夫レ斯ノ如ク勾留狀ヲ發スルニ付テハ本法上ニケノ制限アリト雖モ亦タ之カ例  
 外ナキニアラス被告人ノ逃亡シタル場合即チ是レナリ第七十五條末段ニ曰ク但  
 被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得ト然ル  
 ニ此法文ニ付テハ其解釋ニ付左ノ三說アリ

(第一說) 第七十五條ノ但書ニ所謂被告人逃亡シタルトキハ其訊問ヲ爲サスシ  
 テ勾留狀ヲ發スルコトヲ得云々ノ法文ハ該條全体ノ例外ナリ即チ此法文タル  
 ヤ被告人ヲ訊問スルニ及ハス又禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルニモ  
 及ハサルコトヲ示シタルモノナリ一タヒ逃亡シタル被告人ヲ勾留セスシテ其

爲ス所ニ放任スルトキハ更ニ復タ逃亡スルニ至ルヘシ故ニ被告人逃亡シタル  
場合ニ在テハ縱令其所犯罰金ノ刑ニ該ルトキト雖モ尙ホ勾留狀ヲ發スルコト  
ヲ得ルモノナリ

(第三説) 第七十五條ノ但書ハ單ニ被告人ヲ訊問セスシテ勾留狀ヲ發シ得ヘキ  
コトヲ規定シタルニ止マリ他ノ條件ニ對スル例外ヲナスモノニアラス故ニ被  
告人ノ所犯單ニ罰金刑ニ該當スル場合ノ如キハ縱令其逃亡スルコトアルモ決  
シテ勾留狀ヲ發スヘキモノニアラサルナリ何トナレハ此例外タルヤ素ト被告  
人ノ逃亡シタル場合ニ在テハ縱令之ヲ訊問セントスルモ到底爲シ能ハサルコ  
トナルヲ以テ即チ勾留狀ニ關スルニ條件ノ一タル訊問ヲ省略スルコトヲ許シ  
タルモノナリト雖モ而モ尙ホ他ノ條件タル禁錮以上ノ刑ニ該ル者ト思料スル  
コトハ飽迄モ本則ヲ維持スルニアルコト實ニ斯法ノ精神ナレハナリ故ニ被告  
人ノ逃亡シタル場合ニ於テ其所犯罰金ノ刑ニ該當スルカ或ハ禁錮以上ノ刑ニ  
該當スルカ不分明ナルトキハ格別若シ罰金ノ刑ニ該ルヘキモノナルコト明瞭  
ナルトキハ到底勾留狀ヲ發スルコトヲ得サルモノトス

(第三説) 本法ニ於テ勾留狀ヲ發スル爲メニ被告人ヲ訊問スルコトヲ要スル所  
以ノモノハ素ト其被告人ニ對シテ妄リニ犯罪ヲ推測シテ下スコトヲ許サ、ルノ  
趣旨ニ出テタルモノナリ然ルニ被告人ノ逃亡シタル場合ニ於テハ之ヲ訊問セ  
サルモ犯罪ノ推測ヲ爲スニ足レリトスルカ故ニ法律ハ第七十五條但書ヲ以テ  
例外ヲ設ケ直チニ勾留狀ヲ發スルコトヲ許容セリ故ニ斯ル場合ニ於テハ實際  
被告人ヲ訊問スルコトヲ得ル場合即チ被告人捕ニ就キタル場合ナルト之ヲ訊  
問スルコトヲ得サル場合即チ被告人未ダ捕ニ就カサル場合ナルトヲ論セス此  
例外處分ヲ施シ得ルモノナリ然レトモ此場合ト雖モ其所犯禁錮以上ノ刑ニ該  
ルモノト思料スルニ非サレハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得サルハ勿論ナリ  
以上三説中余ハ法文ノ解釋トシテハ第三説ヲ採ラントス第七十五條但書ニハ被  
告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得トアリテ  
勾留狀ヲ發スル爲メノ二條件中訊問ノ一條件ヲ除キタルハ實ニ明瞭ナル所ナリ  
而シテ罰金以下ノ刑ニ該ルモノヲ勾留スルコトヲ許サ、ルハ本法ノ常則ニシテ  
本法中其常則ニ反スル規定ヲ見出スコトヲ得サルノミナラス第八十六條ニハ豫

審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非スト思料シタルトキハ豫審  
 中何時ニテモ勾留狀ヲ取消ス可シトアリテ苟クモ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノ  
 ニ非スト思料スルトキハ既ニ發シタル勾留狀ヲモ之ヲ取消スヘキコトヲ命ジ益  
 禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料スルニ非サレハ其被告人ヲ勾留スヘカラサルノ  
 趣旨ヲ明カニセリ抑罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ被告人ト雖モ其所犯ノ取調ヲ爲ス  
 ニハ其身体ヲ拘束シ之ヲシテ逃亡セシメサルノ必要ナキニ非ス左レトモ極メテ  
 輕微ナル犯罪ニ至テハ縱令十人ノ有罪者ヲ俸免セシムルモ一人ノ無辜ヲ逮捕セ  
 サルコトハ法律上實ニ肝要ノ事ナルヲ以テ本法ハ此主義ヲ恪守シ勾留狀ハ單ニ  
 禁錮以上ノ刑ニ該當セル被告人ニ對シテノミ之ヲ發スルコトヲ許シタルモノナ  
 ルヘシ本法ノ主義既ニ茲ニ在リトセシカ縱令被告人ノ逃亡シタル場合ニ於テモ  
 初ヨリ罰金ノ刑ニ該當スヘキモノト思料シナカラ尙ホ勾留狀ヲ發スルコトヲ得  
 サルヤ明カナリ故ニ此點ニ付テハ第二說第三說ヲ以テ其當ヲ得タルモノト爲サ  
 、ルヲ得ヌ又第一說ニ於テ被告人ハ既ニ一トモ逃亡シタルモノナルヲ以テ更ニ  
 逃亡セシメサル爲メ之ヲ勾留スルノ必要アリト云フハ第七十五條但書ヲ以テ被

告人逃亡シテ再ヒ捕ニ就キタル場合ト爲スモノ、如ク第二說ニ於テ被告人ヲ訊  
 問セントスルモ之ヲ爲シ能ハスト云フハ被告人逃亡シテ未ダ捕ニ就カサル場合  
 ト爲スモノ、如シ然レトモ第七十五條但書ニハ被告人逃亡シタル場合ニ於テハ  
 云々トアルノミニシテ其就捕前ナルト就捕後ナルトニ付テハ少シモ區別スル所  
 ナシ故ニ被告人逃亡ノ一事アレハ即チ該條ノ規定ニ適當スルモノナルヲ以テ其  
 就捕前ナルト就捕後ナルトニ拘ハラスト云フ第三說ヲ以テ妥當ト爲サ、ルヲ得  
 サルナリ

以上講述セルカ如ク余ハ法文ノ解釋トシテハ第三說ニ同意ヲ表スレトモ退テ此  
 但書ヲ設クルノ必要アルヤ否ヲ熟考スレハ更ニ一ノ疑ナキヲ得ヌ今夫レ第三說  
 ニ從ヒ被告人ノ捕ニ就キタルト否トヲ區別スルコトナク例外處分ヲ施スカ如キ  
 ハ一見甚ク至當ナルカ如シト雖モ決シテ理論ノ許ス所ニアラサルナリ何トナレ  
 ハ假リニ被告人再ヒ捕ニ就キタリトセンカ現ニ之ヲ豫審判事ノ面前ニ引致シ來  
 ルコトヲ得ヘキカ故ニ判事ニ於テ之ヲ訊問シタル後其罰金刑ニ該當スルト否ト  
 ニヨリ本則ニ從ヒ之カ處分ヲ爲スニ於テ何等ノ差開モ之レナカルヘク之ニ反シ

被告人未ダ捕ニ就カサルニ因リ之ヲ逮捕スルノ必要アリトセシカ豫審判事ハ當  
 初ヨリ勾留狀ヲ發スルニ及ハス先ツ勾引狀ヲ以テ之ヲ引致シ訊問ヲ爲シタル後  
 本則ニ從テ勾留狀ヲ發スルモ未ダ遲シトナサ、ルヘケレハナリ之ヲ要スルニ被  
 告人ノ逃亡シタル場合ハ第三說ノ如ク犯罪ノ推測ヲ下シ得ヘケレトモ逃亡シタ  
 ル者ハ必ス禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルモノナリト推測ヲ爲スコト能  
 ハサルヘシ然ルニ第七十五條ノ但書カ單ニ被告人逃亡ノ一事ヲ以テ直チニ本則  
 ノ例外トナシタルハ果シテ如何ナル必要ニ因レルモノナルカ是レ余輩ノ疑訝ニ  
 堪ヘサル所ナリ

勾留狀ニ因リ被告人ヲ拘束スルハ其逃亡ト證據湮滅トヲ防クニアルコト既ニ講  
 述セルカ如シ故ニ此目的ニ反セサル以上ハ縱令勾留中ト雖モ被告人ヲ檢束スル  
 ノ必要ナキヲ以テ本法ハ密室監禁ノ場合ヲ除外被告人ヲシテ監獄則ニ從ヒ官  
 吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ辯護士ニ接見スルコトヲ得セシメ又豫審判事或  
 ハ檢事ノ檢閱ヲ經タル以上ハ被告人ト外人トノ間ニ書翰書籍其他ノ書類ヲ授受  
 スルコトヲ許容セリ而シテ被告人ト外人トノ接見又ハ書類ノ授受ニ當該官吏ノ

立會檢閱ヲ要スルハ專ラ前述セル目的ヲ達スルニ必要ナル豫防處分ナリトス故  
 ニ豫審判事又ハ檢事ニ於テ不當ト認メタル書類ハ之ヲ留置スルコトヲ得ヘシ是  
 レ本法第八十五條第一項及第二項ノ規定スル所ナリ該條ニ於テ書類ヲ檢閱スル  
 官吏中ニ檢事ヲ加ヘタルハ即チ豫審終結後等ニ於テ當該裁判官ナキ場合ヲ慮リ  
 タルモノナルヘシト雖モ豫審ニ關スル規定中ニ豫審以外ノ手續ヲ挿入シタルハ  
 妥當ナリト云フコトヲ得サルナリ

勾留狀モ亦タ勾引狀ト同シク豫審判事若クハ受托判事ニ於テ之ヲ發スルヲ本則  
 トス然レトモ亦タ場合ニ依リ此等ノ判事以外ノ官吏ニ於テ此種ノ令狀ヲ發スル  
 コトナキニアラス即チ現行犯ノ場合ニ於テハ檢事ヨリモ勾留狀ヲ發スルコトヲ  
 得公判中ニ於テハ裁判所亦之ヲ發スルコトヲ得ルノ類ナリ又勾留狀ヲ發スルハ  
 之ヲ發スルコトヲ得ヘキ官吏ノ權能ニシテ之ヲ發スルト否トハ官吏ノ意ニ任ス  
 ルモノナレトモ特別ノ場合即チ豫審ニ於テ重罪公判ニ付スル決定ヲ爲シ又ハ公  
 判ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリト認メタルトキノ如キハ必ス勾  
 留狀ヲ發スヘキコトヲ命シタリ



以上令狀ノ種類ヲ講了シタレハ是ヨリ令狀ノ方式ニ付キ講述スヘシ  
 令狀ノ方式ハ第七十六條ノ規定スル所ナリ今其法規ヲ畧言センニ凡ソ令狀ニハ  
 被告事件ヲ記載セサルヘカラス是レ被告人ヲシテ如何ナル事件ノ爲メニ召喚セ  
 ラレ又ハ勾引勾留セラル、カヲ知了セシメシカ爲メナリ又令狀ニハ被告人ノ氏  
 名職業住所ヲ記載セサルヘカラス是レ被告人ノ人違ナカラシコトヲ希圖スルニ出  
 ルモノナリ左レトモ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルニ方リ被告人ノ氏名分明ナラサ  
 ルトキハ單ニ其容貌体格等ヲ明示スルヲ以テ足レリトス然ラハ召喚狀ニ付テ此  
 例外ヲ許サ、ルハ如何ナル理由ニ出ルモノナリヤト云フニ素ト召喚狀ハ被告人  
 ノ手裡ニ到達セシムヘキモノナルヲ以テ若シ其氏名住所ニシテ不分明ナルコト  
 アラハ到底之ヲ送達スルコト能ハサレハナリ又令狀ニハ書類調製ニ關スル一般  
 ノ法規ニ依リ之ヲ發スル年月日ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記ヲシテ署名捺印セ  
 シムル外特ニ令狀ヲ發スル時ヲ記載セシムルコト、爲セリ時ノ記載ハ之ニ因テ  
 令狀ヲ發シタル時ヨリ之ヲ送達若シハ執行シタル時迄ノ時間ヲ知り得ルノ便ア  
 ルニ過キサルヘシ學者或ハ此點ニ付キ召喚狀ニ於テハ二十四時ノ猶豫時間ヲ起

算スルノ必要アルニ依ルモノ、如ク説明スルモノアリ又公訴ノ時効ヲ中斷スル  
 ノ効力ヲ生セシムルニ必要ナリト説明スルモノアリト雖モ共ニ妥當ヲ得タルモ  
 ノト云フヘカラス  
 本法第七十六條ハ令狀ニ關スル大畧ノ方式ニシテ令狀ニ必要ナル事項ハ該條ノ  
 規定ニテ之ヲ盡シシタリト爲スヘカラス例ヘハ召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ  
 日時及場所ヲ記載セサルヘカラス又勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指示  
 セサルヘカラスナルノ類是レナリ  
 以上令狀ノ方式ヲ講了シタレハ是レヨリ講歩ヲ進メ勾引狀勾留狀ノ執行ニ付キ  
 述フル所アラントス三種ノ令狀中勾引狀勾留狀ノ執行ノミヲ説テ召喚狀ニ及ハ  
 サルハ召喚狀ハ前ニモ述ヘタル如ク出頭ノ命令タルニ止マリ之ヲ強行スル効力  
 ナ有セサルモノナルヲ以テ之ヲ受シヘキ人ニ送達即チ交付スルノミコシテ之ヲ  
 執行スヘキモノニアラス而シテ其送達ニ付テハ既ニ講述シタルモノ、外別ニ説  
 明スヘキコトナキヲ以テナリ  
 令狀ノ執行トハ其令狀ニ記載シタル命令ヲ實行スルノ謂ニ外ナラス故ニ令狀ノ

種類ヲ異ニスルニ從テ其執行方法モ亦同一ニアラサルナリ即チ勾引狀ハ被告人ヲ引致スルヲ以テ執行トシ勾留狀ハ被告人ヲ監獄ニ留置スルヲ以テ執行トス而シテ勾引狀及勾留狀ハ共ニ之ヲ強行スルモノナルヲ以テ此等ノ令狀ハ之ヲ執行スルニ足ルヘキ力ヲ有スルモノヲシテ之ヲ執行セシムルヲ便宜トス故ニ本法ニ於テハ召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシムルニ拘ハラス勾引狀及勾留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシムルコト、セリ然レトモ令狀ヲ執行スル爲メ公力ヲ要スルハ始メテ被告人ノ身体ヲ拘束スヘキ場合ニ在ルモノニシテ令狀ヲ受クヘキ被告人其以前既ニ監獄署ニ在ルトキハ被告人ハ身体ノ自由ナク逃亡又ハ抵抗等ヲ爲サントスルモ爲シ得ヘキ場合ニ非サルニ因リ此場合ニ於テ勾留狀ヲ發シタルトキハ通常ノ方法ニ因リ之ヲ執行スルニ及ハス唯タ其被告人ヲ勾留スル旨ヲ通達スルヲ以テ足レリトス是レ本法第八十四條ニ於テ勾留狀ヲ受クヘキ被告人既ニ監獄署ニ在ルトキハ執達吏ヲシテ之ヲ本人ニ送達セシム可シト規定セル所以ナリ

令狀ヲ執行スルニ付テハ相當官吏ノ發シタルモノナルコトヲ知ラシメシカ爲メ

ニ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下附セサルヘカラス此場合ニ於テハ其正本謄本ニ執行ノ場所日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシメ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス是レ執行ノ事實ヲ後日ニ證明セントスル趣旨ニ出ルモノナリ

勾引狀勾留狀ヲ執行スルニハ被告人ノ所在ヲ確知スルコトヲ得サル場合少ナカラス斯ノ如キ場合ニ在テモ尙ホ一通ノ令狀ヲ以テ被告人ヲ搜索セシムルハ實ニ不便ノ甚シキモノナルヲ以テ本法ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作爲シ之ヲ巡查憲兵卒數人ニ分付シテ同時ニ諸所ヲ搜索セシムルコトヲ得ルノ便法ヲ設ケタリ又被告人ハ諸所ニ潛匿スルモノナルヲ以テ其潛匿シタル場所ニ就テ令狀ヲ執行スルノ必要アリ故ニ本法ハ令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒カ被告人其家宅又ハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料スルトキハ其家宅ニ侵入シテ之ヲ搜索スヘキコトヲ命シタリ而シテ巡查憲兵卒ノ專横ヲ防止セシカ爲メ搜索ヲ爲ス場合ニハ市町村長又ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ要スルコト、シ又家宅ヲ搜索セラル、者ノ靜息安眠ヲ保護センカ爲メニハ日出前日没後ハ搜索ヲ爲スコトヲ得サルノ制限ヲ

設ケタリ左レトモ旅店割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニシテ現ニ之  
 ナ公開シ何人ト雖モ出入スルコトヲ許ス時間内ニ在テハ家宅ノ搜索ヲ爲スモ更  
 ニ其静息安眠ヲ妨害スルノ恐レナシ若シ此等ノ場所ニ於テモ日出前日没後ハ家  
 宅搜索ヲ爲スヲ許サ、ルトキハ衆人ノ出入ハ自由ナルヲ以テ命狀ノ執行ヲ逃レ  
 ノトスルモノハ常ニ此等ノ場所ニ潜匿シ遂ニ犯人ノ潜匿所ト爲ルニ至ルヘシ故  
 ニ本法ハ此等ノ場所ニ於テハ其公開時間ニ限り家宅搜索ヲ爲スコトヲ許シタリ  
 家宅搜索ヲ爲シタル場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラズ搜索調  
 書ヲ作ラシムルハ搜索ヲ爲シタル手續ヲ證明スル爲メニシテ立會人ト共ニ署名  
 捺印セシムルハ其調書ノ事實ニ違ハサルコトヲ證明スル爲メナリ抑家宅ヲ搜索  
 セラル、者ハ之レカ爲メ尠少ナラサル妨害ヲ被ムルヲ以テ濫リニ搜索處分ヲ許  
 スヘキモノニアラサルハ言ヲ俟タサル所ナリ然ルニ本法ノ規定ニ於テハ家宅ヲ  
 搜索セラル、モノニ對シテハ被告人ニ對スルヨリモ却テ其手續ヲ疎畧ニスル所  
 アルニ似タリ何トナレハ被告人ニ對シテハ之ヲ勾引スルト之ヲ勾留スルトヲ問  
 ハス其場合ニ從ヒ勾引狀勾留狀ヲ發シテ其命令ノ正當ナルコトヲ證明スルヲ以

テ其證明ナキ場合ニ於テハ被告人ハ其勾引勾留ヲ拒ムコトヲ得レトモ被告人ノ  
 潜匿シタリト思料セラレタルカ爲メ家宅ヲ搜索セラル、場合ニ於テハ之ヲ搜索  
 セラル、者ニ對シテハ固ヨリ豫審判事又ハ受托判事ノ命令アルニアラス被告人  
 ノ潜匿シタルヘシトノ思料ハ一ニ巡查憲兵卒ニ任スルモノナレハナリ法律ハ巡  
 査憲兵卒ノ専横ヲ防遏センカ爲メニ市町村長等ヲシテ立會ハシムルノ制ヲ設ク  
 レトモ立會人ハ搜索ノ手續ニ注意スルコトヲ得ルコト止マリ巡查憲兵卒ノ思料ニ  
 付干涉スルコトヲ得ルモノニ非ス故ニ令狀ニ因リ勾引又ハ勾留セラルヘキ被告  
 人自身ノ家宅ヲ搜索スル場合ニ於テハ勾引狀又ハ勾留狀ノミニテ不都合ナクレ  
 トモ其令狀ヲ以テ他人ノ家宅ヲ搜索スル場合ニ於テハ豫審判事又ハ受托判事ヨ  
 リ搜索ノ命令ヲ發セシムルコト、爲スニ非サレハ十分ノ保證アルモノト云フコ  
 トヲ得サルナリ然レトモ令狀ヲ執行スルニ付テハ初ヨリ被告人ノ所在ヲ知了シ  
 得ヘカラサル場合居多ナルヲ以テ巡查憲兵卒ニシテ被告人ノ所在ヲ探知シタル  
 トキハ直ニ之ヲ執行セサルヘカラス若シ被告人ノ所在ヲ知り得タル場合ニ於テ  
 俄カニ搜索令狀ヲ求ムル如キ手續ヲ要スルモノト爲サハ被告人ハ忽チ逃亡シテ

復タ之ヲ逮捕スルコトヲ得サルニ至ルヘシ故ニ法律ハ巡查憲兵卒ノ思料ノメヲ以テ家宅搜索ヲ爲サシムルコトヲ好マサレトモ被告人ヲ逮捕スル爲メニハ已ムヲ得サルコトナリトシテ之ヲ許シタルモノナルヘシ

既ニ講述セルカ如ク裁判所ハ土地ノ區劃ニ因リ其管轄ヲ異ニスルモノニシテ甲裁判所ノ判事ハ乙裁判所ノ管轄内ニ於テ其職務ヲ行フコト能ハスト雖モ自己ノ管轄地内ニ於テ正當ニ行フタル處分ノ効力ハ其管轄地ノ區劃ニ因リテ限ラル、モノニ非ス故ニ豫審判事ニ於テ一度事件ヲ受理シタル後被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知り又ハ潜匿シタルト思料シタル場合ニ在テハ其被告人ニ對スル令狀ヲ發シ法律上共助ノ規定ニ因リ被告人所在地ノ相當官吏ニ送致シ其執行ヲ囑托スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ被告事件急速ヲ要スル場合即チ巡查又ハ憲兵卒ニ於テ甲裁判所ノ管轄内ヨリ被告人ヲ追跡シ遂ニ乙裁判所ノ管轄内ニ進入シタル場合ノ如キモ尙ホ通常ノ規定ニ依リ先ツ甲裁判所ニ於テ發シタル令狀ヲ乙裁判所ニ送致シ然ル後乙裁判所ニ於テ之ヲ執行スルモノトセハ常ニ其時機ヲ失シテ被告人ヲ逃亡セシムルノ恐レアリ是レ本法第七十九條第一項ニ於

テ斯ル場合ニハ巡查憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ許容スル所以ナリ豫審判事ノ發スル令狀ハ管轄外ニ對シテモ尙ホ其効力アルコト右ノ如シト雖モ之ヲ執行スル巡查憲兵卒ハ一定ノ管轄地内ニ於テ各上官ノ指揮ニ因リ職務ヲ行フヘキモノナルヲ以テ令狀ヲ帶行シテ他ノ管轄内ニ進入シタル場合ニ於テモ直チニ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ許サス故ニ第七十九條第二項ニ於テ巡查憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ムヘント規定セリ

軍人軍屬ハ其規律嚴正ニシテ上官ノ命令アルニ非サレハ容易ニ其職役ヲ離ル、コトヲ得ス故ニ本法ハ其第八十一條ニ於テ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示シ其長官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シト規定セリ蓋シ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ縱令其身分ハ軍人軍屬ナルニモセヨ平常軍務ニ服スルモノニ非サルヲ以テ裁判管轄ノ如キモ通常裁判所ニ屬センメタルカ故ニ令狀執行ノ場合ニ於テモ亦豫備後備ノ軍籍ニ在ル軍人軍

屬ヲ以テ規定ノ例外ト爲シタルモノナルヘシ然ルニ此第八十一條ニ於テ一般ノ軍人軍屬ニ關スル規定ヲ設ケス單ニ下士以下ノ軍人軍屬ニ關スル規定ノマテ設ケタルハ長官若シハ隊長ノ命ヲ待テ令狀ニ應スルト否トヲ決スヘキモノハ下士以下ニ限り士官以上ニ於テハ自己ノ意見ヲ以テ之ヲ決定スルモ妨ケナシトノ趣旨ニ出タルモノナルヘキヤ治罪法第三百三十六條ニハ陸海軍在營ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタル時ハ所屬長官ニ令狀ヲ示ス可シ長官ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ其行軍ノ際亦同シトアリテ固ヨリ下士以下ノ軍人軍屬ニ限ラザリシカ民事訴訟法ニ於テハ其第三百九條ニ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スト規定シタルヲ以テ意フニ本法モ亦民事訴訟法ノ文例ニ倣ヒタルモノナルヘシ然ルニ民事上ニ於テハ士官以上ノ人ニ對シ直接ニ送達ヲ爲スハ不都合ナカルヘキモ刑事上ニ於テ直チニ本人ヲ勾引勾留セサルヲ得サル如キ場合ニ於テハ士官以上ノ人ナリトテ一概ニ自己ノ考慮ニ放任スルヲ得サルコトナキニ非サルヘシ現ニ本法中ニ在リテモ證人ニ關スル第三百十七條及ヒ第三百

十八條末項ノ規定ハ俱ニ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ト記シタルノミニテ一モ士官以上ト下士以下トニ付キ區別ヲ設クルコトナシ斯ノ如ク證人ニ就テハ其區別ヲ設ケサルニモ拘ハラズ獨リ被告人ニ就テ此區別ヲ設ケタルハ或ハ完全ナリト云フコトヲ得サルヘシ然レトモ軍人軍屬ノ犯罪ニ付テハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ヲ除クノ外總テ軍法會議ニ於テ之ヲ管轄スルモノニシテ明治十八年第十二號布告ニ依リ時トシテハ軍人軍屬ノ犯罪ヲ普通裁判所ニ於テ審問スルコトナキニ非サレトモ多クハ現行犯等ニ係リ令狀ヲ用ヒス直ニ之ヲ逮捕スル如キ場合ナリ故ニ士官以上ハ勿論下士以下ノ軍人軍屬ニ對シテモ令狀ヲ發シテ之ヲ逮捕スルコトハ絶無ト云フモ不可ナルコトナキモノナルヲ以テ假シヤ本法ノ規定ヲ不完全ナリトスルモ實際ニ於テハ差支ヲ生スルコトナキモノナリ(明治十八年第十二號布告第二條參看)

被告人カ他ノ管轄地内ニ潛匿スル場合ニハ余ノ前ニ講述シタル如ク豫審判事ハ令狀ヲ發シテ其執行ヲ囑託スルカ或ハ又巡查憲兵卒ヲシテ其令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得ルモ若シ被告人ノ所在ヲ覺知シ能ハサル場合ニハ巡查憲兵卒ヲシテ

令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得サルハ勿論又其執行ヲ囑託セントスルモ多數ノ令狀ヲ發シテ日本全國ノ裁判所ニ囑託セサル可カラサルカ如キ不都合アルヲ以テ本法ハ特ニ此場合ニ處スル爲メ其第八十條ニ一ノ便宜法ヲ設ケ豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ搜查及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得ヘシ其請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可キモノト爲セリ此處分ハ一ノ變例ニシテ非現行犯ノ被告人ニ對シ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發セシムルモノナリ而シテ此逮捕狀ハ固ヨリ豫審判事ノ發スル勾留狀ト同一視ス可キニ非ス從ツテ此逮捕狀ハ之ニ依リ當然被告人ヲ留置スルノ効力アリトスルヲ得ス左レハ一タヒ逮捕狀ニ依リ被告人ヲ逮捕スルモ直ヤニ其被告人ヲ放免セサルヲ得サル如キ結果ヲ生ス可シ是レ本法カ特ニ此逮捕狀ニハ勾留狀ト同一ノ効力アリト規定シタル所以ナリ右ノ規定ニ依リ被告人ノ搜索及ヒ逮捕ニ付キ豫審判事ヨリ直接ニ請求ヲ受ケルモノハ檢事長ノミニ止マレトモ豫審判事ノ請求ヲ受ケタル檢事長ハ第八十條第二項ノ規定ニ依リテ各其ノ管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮

捕ノ處分ヲ爲サシムル可カラサルカ故ニ豫審判事ノ請求ハ其結果全國ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ手續ヲ爲サシムルモノナルヲ以テ其事件重要ニシテ且ツ被告人ヲ逮捕スルコトノ極メテ必要ナル場合ニ非レハ豫審判事ハ決シテ本條ノ手續ヲ爲ス可カラサルハ言ヲ俟タサル所ナリ  
勾留狀ハ屢々講述セル如ク被告人ヲ留置スル爲メ發スルモノナレハ勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ速カニ之ヲ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致セサル可カラス然レトモ實際一日中ニハ被告人ヲ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致シ得サル場合アリ斯ル場合ニ於テハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ許セリ而シテ令狀ニ記載シタル監獄署ニ被告人ヲ引致シタル場合ナルト將タ又其最近ノ監獄署ニ被告人ヲ引致シタル場合ナルトハ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡サ、ル可カラス監獄署長ヲシテ令狀ヲ檢閲セシムルハ之ヲシテ自己ノ責任ヲ全フセシメンガ爲メニシテ被告人ヲ受取りタル證書ヲ渡サシムルハ巡查憲兵卒ヲシテ其責任ヲ免レシムル所以ナリ  
勾引狀ナルト勾留狀ナルトヲ問ハス令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ令狀

執行ノ模様ヲ報告スル爲メ其令狀ヲ執行シタルトキハ其旨ヲ令狀ノ正本ニ記載シ若シ又令狀ヲ執行シ能ハサリシトキハ矢張其執行シ能ハサリシ理由即チ被告人ヲ發見シ得サリシ等ノ事柄ヲ同シク令狀ノ正本ニ記載セサル可カラス而シテ令狀ノ正本及ヒ令狀ノ執行ニ關スル書類例ヘハ家宅搜索ヲ爲シタル調書等アル場合ニ於テハ此等ノ書類ヲ取纏メ總テ之ヲ檢事ニ差出ス可キモノトス(第八十三條)

令狀執行ニ關スル本法ノ規定ハ大畧前述セシ所ノ如シ令狀ハ豫審判事又ハ受託判事ニ於テ之ヲ發ス可キモノニシテ之ヲ執行スルハ巡查憲兵卒ノ職務ナルコトハ前述ノ規定ニ因リ明瞭ナル所ナレトモ令狀ノ執行ハ何人ヨリ之ヲ巡查憲兵卒ニ命ス可キモノナルヤノ點ニ至リテハ本法中一モ之ヲ定メタル所ナキニ因リ其令狀ヲ發スル者即チ豫審判事又ハ受託判事ヨリ直接ニ令狀ノ執行者即チ巡查憲兵卒ニ命ス可キモノト爲スハ當然ナルニ似タリ然ルニ本法第八十三條第二項ニハ巡查憲兵卒ニ命スルニ令狀ノ執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可キコトヲ以テセリ豫審判事又ハ受託判事ヨリ直接ニ令狀ノ執行ヲ命スルモノナラハ其執行者

タル巡查憲兵卒ヲシテ其執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出サシムルノ理由ナシ何トナレハ此等ノ書類ヲ差出スハ執行ノ報告ニ外ナラスシテ報告ハ之ヲ命シタル者ニ爲ス可キハ當然ナレハナリ加之裁判ノ執行等ハ檢事ヲシテ之ヲ指揮セシムルニモ拘ハラス獨リ令狀ノ執行ニ限リ判事ヲシテ直接ニ之ヲ指揮セシメ檢事ヲシテ之ニ關係セシメサルハ判檢事ノ職務分配上ニ於テモ亦其當ヲ得タルモノト云フヘカラス試ミニ治罪法ヲ參看スルニ其第三十四條ニ刑事ニ關スル檢察官ノ職務ヲ掲ケ其第三項ニ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ストノ明文アルヲ以テ令狀ノ執行ノ如キハ此明文ニ依リ素ヨリ檢事ニ於テ指揮ス可キモノナリ檢事ハ令狀執行ノ指揮者ナリ從ツテ令狀ノ執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出サシムルハ令狀執行ノ報告ヲ其指揮者ニ爲サシムルモノニシテ治罪法ニ於ケル此規定ハ實ニ適當ナリシナリ然ルニ本法ニ於テハ檢事ノ職務ハ之ヲ裁判所構成法第六條ニ規定シタリト云フノ理由ヲ以テ治罪法第三十四條ヲ删除シタルモ裁判所構成法第六條ニハ治罪法第三十四條第三項ニ該當ス可キ規定ナキカ爲メ終ニ前述ノ如ク令狀ノ執行ハ何人ニ於テ之ヲ指揮ス可キモノナルカ又令狀ノ執行ニ關スル

書類ハ何故ニ之ヲ檢事ニ差出サシムルカ之ヲ了解スルコトヲ得サル如キ不都合ヲ見ルニ至レリ然レトモ裁判所構成法第六條ニ於テ檢事ハ令狀執行ノ指揮ヲ爲スヘキモノナリテフ規定ヲ設ケス又本法ニ於テモ治罪法第三十四條第三項ノ規定ヲ删除シ他ニ令狀執行ノ指揮ニ關スル規定ヲ設ケサリシハ畢竟立法者ノ粗漏ニシテ豫審判事又ハ受託判事ヲシテ之ヲ指揮セシムルノ趣旨ニ非サルコトハ疑ヲ容レサル所ナリ故ニ法文ノ不完全ハ姑ク措キ本法第三十八條ニ於テ巡查憲兵卒ヲシテ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出サシムルコト、爲シタルハ即チ檢事ヲシテ令狀執行ノ指揮ヲ爲サシムルノ趣旨ナリト解釋セサルヲ得サルヘシ

密室監禁

第二節 密室監禁

密室監禁ハ本法第八十七條ニ於テ豫審判事ニ許シタル特別處分ニシテ其處分ハ豫審判事カ事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ施スコトヲ得ルモノナリ而シテ本法第八十八條ニハ密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サストアリテ未決勾留

中他ノ囚人ト一室ニ同居セシメサル事ト他人ト接見シ及ヒ書類物品ヲ授受スルニ付キ其取締ヲ嚴ニ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非レハ之ヲ許サ、ル事トヲ以テ密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シ施ス可キ處分トセリ

密室監禁ハ未決勾留ニ關スル特別處分ニシテ未決勾留ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可シト思料セラル、被告人ニ對スルニ非レハ之ヲ爲スコトヲ許サ、ルカ故ニ密室監禁モ亦禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ然レトモ密室監禁ノ言渡ハ被告人ヲ別室ニ置キ接見又ハ書類物品ノ授受ヲ禁スルノ効力アルニ止マルモノナレハ密室監禁ノ言渡ヲ爲シタリトテ其言渡ノミニ依リ直チニ被告人ヲ留置スルノ効力アルモノニアラス故ニ密室監禁ハ被告人ヲ勾留シタル後ニ至リテ爲シ得ヘキ處分ニシテ縱令禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪ナルモ未ダ其被告人ヲ勾留セサル場合ニ於テハ素ヨリ密室監禁ノミヲ爲シ得ヘキモノニアラス是レ法文ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人云々ト書セスシテ勾留狀ヲ受ケタル被告人云々ト書シタル所以ナリ

密室監禁ハ十日ヲ超過スルコトヲ許サ、ルカ故ニ密室監禁ノ言渡ハ常ニ十日以



内ヲ限リテ効力ヲ有シ十日以上ノ期限ヲ定メテ密室監禁ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ス然レトモ十日間密室監禁ヲ爲シタル後尙ホ其事件ノ模様ニ依リ密室監禁ヲ爲スノ必要アリトスル場合ニ於テハ其言渡ヲ更改シ更テ十日間ノ密室監禁ヲ爲スコトハ禁スル所ニ非サルナリ而シテ此言渡ヲ更改スルニ就テハ法律ハ之ヲ更改スルノ事由ヲ裁判所長ニ報告スヘキコトヲ命シタルノミニテ如何ナル場合ハ更改ヲ許シ如何ナル場合ハ更改ヲ許サ、ルヤ換言セハ更改ノ條件及ヒ其度數等ハ一モ之ヲ規定スル所ナシ又法律ハ密室監禁ヲ爲シタル場合ニ於テハ豫審判事ニ命スルニ十日間ニ少クトモ二度ハ被告人ヲ訊問ス可キコトヲ以テセリ

密室監禁ニ關スル規定ヲ以テ通常ノ未決勾留ニ關スル規定ニ對比スレハ其居室及ヒ他人トノ接見書類物品ノ授受ニ付テ素ヨリ寬嚴ノ差ナキコト非ス然レトモ人ノ權利自由ヲ滅殺スルハ未決勾留ノ性質上免カル可カラサル所ナルヲ以テ其權利自由ヲ滅殺セラル可キ未決囚人ニ對スル規定トシテ之ヲ看レハ密室監禁ハ必シモ嚴酷ナル處分トスルニ足ラサルニ似タリ然ルニ本法ヲ講スルモノハ總テ密

室監禁ヲ以テ嚴酷ナル處分トセサルハナク甚シキニ至リテハ密室監禁ハ拷問ノ一種ナリト爲スモノアリ而シテ實際ノ狀況如何ヲ觀察スルニ密室監禁ノ處分カ被告人ヲ苦マシムルコト非常ニシテ密室監禁ノ苦痛ニ耐ヘス不實ノ自白ヲ爲シタリト云フハ密室監禁ヲ受ケタルモノカ後日ニ至リ其自白ヲ取消ス爲メノ辭柄ト爲リ居ル有様ナリ法律ハ密室監禁ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナル處分ト爲セリ然レトモ密室監禁ハ如何ナル點ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナルヤヲ明示セス然ルニ本法第八十九條第三項ニ豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問ス可シトアルヲ解釋シ密室監禁ヲ以テ被告人ヲ苦シメ置キ其苦痛ニ乘シテ之ヲ訊問スルトキハ被告人ハ必ス其罪ヲ自狀スヘキニ因リ十日間ニ二度以上訊問ヲ命シタルモノト爲シ或ル學者ノ如キハ密室監禁ハ專ラ被告人ノ自白ヲ得ントスル方法ナルヲ以テ密室監禁中數々被告人ヲ訊問スヘキハ其性質上當然ノコトナリト斷言セリ若シ右ノ趣旨ヲ以テ本法ヲ解釋シ苟クモ其罪狀ヲ自白セサレハ直ニ密室監禁ノ言渡ヲ爲シ被告人カ自白セサル間ハ幾度ニテモ其言渡ヲ更改シ數十日若シハ數百日ニ至ルモ尙ホ其監禁ヲ解カサルモノトセンカ縱令密室監禁

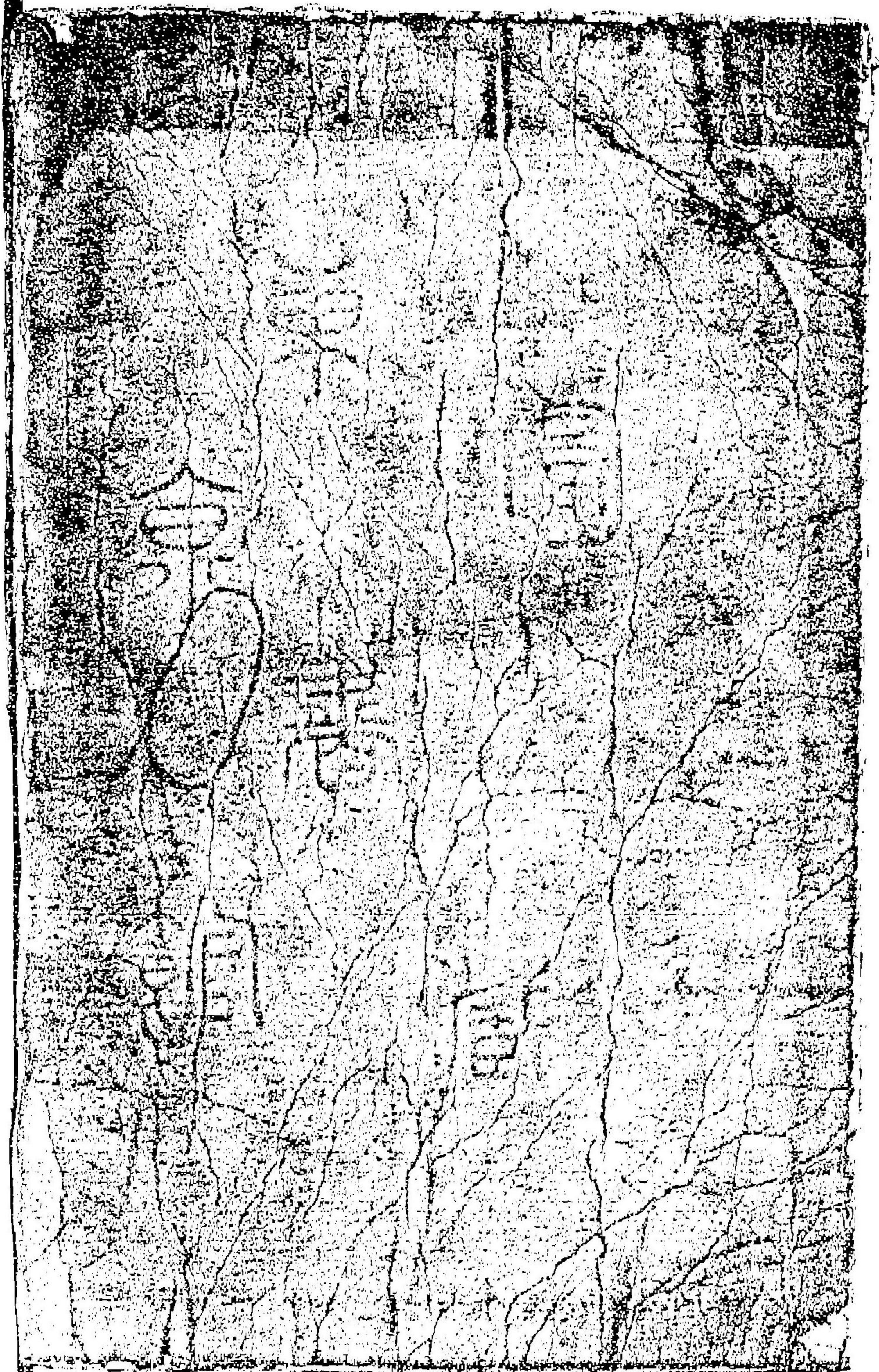
自体ハ格別嚴酷ナル制度ニアラサルモ之ヲ濫用スルカ爲メニ被告人ヲシテ苦痛ニ耐ヘサテシムルコトアルハ言テ俟タサル所ニシテ之ヲ以テ拷問ノ一種ト爲スモ適當ノ評言ナリト云ハサルヲ得サルナリ本法ハ豫審處分ニ於テモ被告人ノ訊問ヲ以テ重要ナルモノト爲シタルコトハ明瞭ナル所ナリ然レトモ必ス被告人ヲシテ其罪狀ヲ自白セシム可キコトヲ明言セサルノミナラス却テ第九十四條ニ於テ豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カラサルコトヲ明示セリ左レハ密室監禁ヲ以テ被告人ノ罪狀ヲ自白セシムル爲メノ方法ナリトスルハ本法全体ノ趣旨ニ反スルモノト云ハサルヲ得ス故ニ余ハ被告人カ外人ト接見シ又ハ書類物品ヲ授受スルニ付本法第八十五條ノ制限ニ從ハシムルノミニテハ尙ホ證據ヲ湮滅シ若シハ不實ノ證據ヲ作爲スルカ如キ惡念アル場合ニ於テ一層其取締ヲ嚴ニスル爲メ密室監禁ヲ許シタルモノニシテ密室監禁中十日間ニ少シトモ二度被告人ヲ訊問セシムルハ唯其取調ヲ等閑ニ附シ之カ爲メ長日子間密室監禁ヲ爲スノ弊害ナカラシメントスル趣旨ニ過キサルモノト解釋セント欲スルナリ

(編者曰) 本講刑事訴訟法ハ受持講師ノ疾病其他ノ事故ヨリシテ全部講了ノ運ニ立至ラサリシハ諸君ト共ニ大ニ遺憾トスル所ナリ然レトモ奈何セム學年モ既ニ經過シタルコトナレハ茲ニ一先ツ本法ヲ完結スルノ已ムヲ得サルコト、ナリタリ諸君幸ニ之ヲ諒セヨ

## 刑事訴訟法講義(完結)

▼
70

五/由  
1/2  
2/3





東京大学法学部  
刑事訴訟法  
倉富勇三郎

10

036686-000-5

マ-7口

刑事訴訟法講義

倉富 勇三郎/述

[M29?]

BBS-0109



70

東京法政学院

廿五  
自叙  
海義録

刑事訴訟法

高富勇三郎講